

日本語学習サイト「まるごと+ (まるごとプラス)」の開発 — 課題遂行と異文化理解を助けるウェブサイト —

川嶋恵子・和栗夏海・宮崎玲子・田中哲哉・三浦多佳史・前田純子

[キーワード] eラーニングサイト開発、初級成人対象、課題遂行、異文化理解、
JF 日本語教育スタンダード

[要 旨]

JF 日本語教育スタンダード準拠の海外の成人向け教科書『まるごと 日本のことばと文化』の開発に合わせ、関西国際センターでは、この教科書を使って学ぶ学習者のためのサポートサイト「まるごと+ (まるごとプラス)」を開発した。『「日本語を使ってできること」が増やせる』、『「リアリティ」のある練習ができる』、『「大人が『楽しく使える』』の3つをキーコンセプトとして定め、課題遂行を意識した練習、異文化理解のための情報やきっかけを提供するサイトを目指すこととした。「まるごと+」は教科書の「入門 A1」、「初級1 A2」の2つのレベルに対応した種々のコンテンツを提供しており、動画を使った会話練習や異文化理解のためのコンテンツを中心に、学習者や教師から好評を得ている。本稿では、「まるごと+」の開発方針とそれをどのように具現化したか、また、サイトの反響を報告する。

1. はじめに

国際交流基金では、日本語と日本文化を日本人だけでなく、世界の人々と共有できるものであると捉え、「相互理解のための日本語」を実現するために、日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の仕方を考えるためのツールである「JF 日本語教育スタンダード (以下、JF スタンダード)」を開発した。そして、この JF スタンダードを教育現場でどう適用するかを具現化した海外の一般成人向けの教科書『まるごと 日本のことばと文化』(以下、『まるごと』)を開発し、海外拠点で展開している JF 日本語講座において、この教科書を使った実践を行っている⁽¹⁾。

国際交流基金関西国際センター (以下、関西センター) では、世界の日本語学習者を直接支援する方法の一つとして日本語学習ウェブサイトの開発を行い、運営してきた⁽²⁾。その次なる開発サイトとして、『まるごと』教科書とあわせて使うことにより更なる学習効果が生まれるような学習者用サポートサイト「まるごと+ (まるごとプラス) (<http://marugotoweb.jp>)」の開発を行うこととなり、現在、「入門 A1」、「初級1 A2」の2レベルの教科書の内容に

対応した種々のコンテンツを「まるごと+」シリーズとして公開している。

管見の限り、教科書と連動して使える学習者向けのウェブサイトを用意した日本語教材はまだあまりないものと思われる。ウェブという媒体の特性を活かせば、紙媒体での提供には限りのある動画、音声などを使ったコンテンツを提供でき、学習者が日常的に利用しているウェブ上で、教室外でも日本や日本語への接点をつくることができる。特に、海外の学習者にとっては、貴重な機会の一つにもなり得る。本稿は、「まるごと+」シリーズの開発において、どのような開発方針を持って、それをどのように具現化したのか、「まるごと+」のコンテンツや制作上の工夫、ユーザーからの反響等を報告するものである。

2. 開発方針

2.1 『まるごと 日本のことばと文化』と「まるごと+」

JFスタンダードに準拠した『まるごと』教科書は、言語熟達度によるレベル設定がなされていること、課題遂行 (Can-do) で学習目標が立てられていること、異文化理解の学習を促進するものであること、ポートフォリオを使った学習の仕組みを取り入れていること、トピックを切り口としていることが特徴として挙げられる (来嶋他2012、2014)。「まるごと+」は、『まるごと』教科書に準拠するウェブサイトであるため、サイトの考え方やユーザー像は、『まるごと』教科書を基本とすることとした。一方で、『まるごと』教科書を使った授業には必ずしも「まるごと+」を使った学習が組み込まれているわけではなく、すべての学習者にサイトの利用が義務付けられているわけではない。したがって、「まるごと+」は、主として、学習者が自主的に自宅などで利用するものであると位置づけた。また、日本語に関する知識のインプットは授業の中で行われるため、サイトでは授業で習ったことを練習するためのコンテンツを中心に提供することにした。

2.2 ユーザー像とニーズ

上述のように、「まるごと+」の主たるユーザーは、『まるごと』教科書を使う学習者である。『まるごと』教科書は、国際交流基金が海外拠点で運営しているJF日本語講座で試行、利用されているため、JF日本語講座に通う受講生像を把握し、「まるごと+」のユーザー像として、制作者間で共通認識を持つ必要があると考えた。そこで、JF日本語講座で教えている国際交流基金の派遣専門家、および元派遣専門家に、JF日本語講座の特徴および講座にどのような受講生が来ているのか、また、『まるごと』教科書を使ったクラスを開講した場合、どのような人物の受講が想定されるかなどについて聞き取りを行った。その結果が表1である。

表 1 JF 日本語講座・講座受講生の特徴

国・地域	国際交流基金海外拠点を中心とした20カ国近い、いろいろな国や地域 ⁽³⁾
レベル	入門・初級（・中級・上級） ⁽⁴⁾
対象	一般成人（20代～60代）
学習の頻度	週に1～2回、1回2時間程度の授業
日本語学習の動機	日本の文化（伝統文化やポップカルチャー）への興味 仕事や就職のため
学習目的	日本語そのものに興味があり、言語知識を得たい 日本人と日本語で話したい 試験や資格だけを目的とせず、趣味として日本語を学びたい
日本についてのリテラシー	日本文化に興味がある 自分の趣味や旅行、仕事と関連した分野には高いリテラシーがある 一般的な日本の生活については知らないことも多い
ITリテラシー	高い人も低い人もいて一定ではない

さらにサイトのユーザー像を具体的にイメージするために、聞き取った内容を統合して、5人の「ペルソナ」として再構成した。「ペルソナ」とは、架空のユーザー像のことで、具体的にサイトのユーザーとなる人物を想定し、その人物にはどのようなニーズがあるのかを考えたり、開発の過程で迷った場合などに判断のよりどころとしたりするためのものである。ペルソナを作成することで、開発メンバー間でのイメージの共有がしやすくなるという利点もある。

「まるごと+」のペルソナは、表2に示した通りである。特に、表中の下線部に注目し、以下(A)～(F)を「まるごと+」のユーザーのニーズとして想定することとした。

- (A) 会話練習がしたい。日本人と実際に話す機会がほしい
- (B) 日本への旅行などで、日本語を使ってみたい
- (C) 短い時間でもできる、効率的な練習がしたい
- (D) 日本の文化に興味があり、日本人の生活も知りたい
- (E) 言語知識をしっかり学びたい
- (F) 趣味として日本語を勉強したい

表2 「まるごと+」のペルソナ

アジア 大学生 女性 入門レベル	日本のアニメ・マンガが大好き。J-POPも毎日YouTubeで聞いている ^(D) 。ネットは生活の一部。日本語を勉強したことはないけれど、歌詞などが聞いてわかるようになりたい ^(F) 。日本人と話してみたいけれど、なかなかチャンスがない ^(A) 。
東欧 大学生 男性 初級レベル	子どもの頃から日本のアニメが好きで、大学で日本語を学び始めた。大学の日本語クラスは人数が多くて話す練習が少ないので、大学生活は忙しいが、会話の練習がしたくて国際交流基金の講座を受講することにした ^(A) 。日本のアニメやマンガについては詳しいが、日本人の生活などはあまり知らない。でも、とても興味がある ^(D) 。
西欧 定年退職者 女性 入門レベル	日本の文化イベントで日本に興味を持つようになり、日本語を学ぶことにした。日本の文化、特に伝統文化に興味があり ^(D) 、茶道や和食についての本も読んだことがある。日本語の勉強は趣味 ^(F) 。ちょっと会話が勉強してみたい ^(A) 。日本にいる友人に会いに日本へ行くことを計画しているので、その旅行で、食事や観光で日本語が使いたい ^(B) 。
西欧 社会人 男性 入門レベル	武道がきっかけ ^(D) で日本語を勉強してみようと思った。日本語を勉強するのは初めて。日本について、まだあまり知らないが、これからいろいろ知りたい。漢字には興味があるし、文章を書くことが好き。きちんと勉強したいけれど、仕事が忙しいので、予習や復習をゆっくりする時間はとれない ^(C) 。
アジア 社会人 男性 初級レベル	最近、友人が日系企業に就職したので、自分も日本語を勉強してみようと思った。少し日本語を勉強したことがあるが、文法や読み書きが得意ではない。日本語能力試験に合格するための勉強がしたい ^(E) 。

2.3 キーコンセプト

以上のように、2.1から「まるごと+」は自宅学習での使用を想定し、練習中心のサイトであると位置づけた。そして、2.2からサイトのユーザー像やニーズが見えてきた。これをもとに、次のステップとして、どのようなサイトであれば「まるごと+」のユーザーによりよい学習を提供できるかを開発メンバーで話し合った。その際、これまでの自分たちの学習経験や利用してきたeラーニングサイトを振り返り、どんなサイトだったら使ってみたくなるか、継続的に利用しようと思うかなどについて考え、「まるごと+」のコンセプト作りを行った。

まず、上述のニーズ(A)～(F)のうち、「(A) 会話練習がしたい」「(B) 日本語を使ってみたい」というニーズからは、日本語で「できる」という実感が得られるサイト作りが良いのではないかと考えた。そのためには、課題遂行を意識した練習を行い、「できるようになった」ことが自分でも確認でき、満足感を得られることも大切であると考えた。また、忙しい生活の中での「(C) 効率的な練習」のためには、全部をやらなければならないのではなく、自分に必要なものを選んで学習できるということも重視した。会話だけではなく、「(E) 言語知識を学びたい」というユーザーにとっても、必要な漢字や文法項目を選んで知識を確認し、練習ができるサイトを目指すこととした。

次に、「(A) 実際に話す機会がほしい」というニーズがあるが、海外の学習者にとって、実際の日本語でのコミュニケーション体験は難しい場合も多い。そのため、サイトで可能な限り

「リアリティ」のある練習を提供するためにはどのようにすればよいかを話し合った。そして、サイトの中であっても、動画を効果的に利用することにより、臨場感を出せるのではないかと、また、実際に触れ合うことがありそうな人や学習した日本語が実際に使われる場面を設定することで、より「リアリティ」を感じられるのではないかと考えた。日本人の実際の生活を映し出すことにより、「(D) 日本人の生活も知りたい」というニーズにも応えられる。さらに、練習自体に必要性があり、目的が明確であるといったことも成人のユーザーの学習動機を高めるのではないかと考えた。

そして、「(D) 日本の文化に興味」がある、「(F) 趣味として日本語を勉強したい」という成人のユーザーに、利用を義務付けられていなくても継続的に使いたいと思ってもらうためのサイト作りについても議論した。そのためには、日本語力の向上といった効果に加えて、サイトの利用が楽しいと感じられることもかなり重要な要素となる。では、大人が楽しいと思うサイトにはどのような要素が必要になるのであろうか。まず、コンテンツ自体の面白さが必要である。そのため、知的好奇心を高める内容、達成感が得られる工夫、内容にストーリー性を持たせることなどをサイトに入れ込むこととした。また、デザインに関しても、見た目がよい魅力的なサイトでなければ、続けて利用したいとは思わないだろうとも考えた。そして、「(C) 短い時間でもできる」ように練習はコンパクトにし、ITリテラシーの高さに関わらず、使いやすいサイト作りも重要であるとも考えた。

こういったことから、「まるごと+」のキーコンセプトを『日本語を使ってできること』が増やせる』、『リアリティ』のある練習ができる』、『大人が『楽しく使える』』とし、これをもとに、種々のコンテンツを構成していくこととした。「まるごと+」のキーコンセプトと、それを実現するためのサイトの要素は、表3のようにまとめられる。

次章より、このキーコンセプトを具現化したサイト「まるごと+」について紹介する。

表3 「まるごと+」のキーコンセプト

「日本語を使ってできること」が増やせる	課題遂行を意識した練習ができる できるかどうか、自分で確認でき、満足感が得られる 自分に必要な練習が選べる
「リアリティ」のある練習ができる	動画による臨場感が感じられる 実際にいそうな登場人物、現実的な使用場面が考慮されている 日本について生の情報があり、今の日本の生活や文化が感じられる 練習の必要性や目的が明確である
大人が「楽しく使える」	コンテンツ自体が面白い デザインが魅力的である 使いやすい

3. 「まるごと+」シリーズ

「まるごと+」は、『まるごと』教科書の「入門 A1」と「初級1 A2」レベルに対応しており、「まるごと+ 入門 (A1)」(以下、「入門 (A1)」)、「まるごと+ 初級1 (A2)」(以下、「初級1 (A2)」)の本体サイト、語彙や表現をまとめた「まるごとのことば」サイトの3サイトから成る。



図1 グローバルホーム
(<http://marugotoweb.jp>)

表4 各サイトの詳細

サイト名	URL	対応言語	公開日
入門 (A1)	http://a1.marugotoweb.jp	日本語、英語、 スペイン語	2013年2月28日
初級1 (A2)	http://a2.marugotoweb.jp	日本語、英語	2014年6月27日
まるごとのことば	http://words.marugotoweb.jp	英語、スペイン語	2013年8月16日

対応している言語は、「入門 (A1)」が日本語、英語、スペイン語の3言語、「初級1 (A2)」が日本語、英語の2言語、「まるごとのことば」が英語、スペイン語の2言語である。

それぞれ、『まるごと』教科書で使われているトピックカラーを使ったり、教科書のトピックや Can-do からコンテンツを選べるようにしたりして、『まるごと』教科書を使っている学習者にとって使いやすいようにした。

「まるごと+」シリーズは、基本的に、パソコンで見るユーザーを想定して制作している。しかし、「まるごとのことば」には、辞書的な使い方をするユーザーが多いことを想定して、例えば、教科書を使って教室で学習する際にもすぐに参照できるように、スマートフォン版もある。

4. 本体サイト：日本語学習コンテンツ

「入門 (A1)」 「初級1 (A2)」の本体サイトは、大きく分けて、会話や漢字などの日本語学習コンテンツと、異文化理解コンテンツに分かれる。すべてのコンテンツを積み上げて学習しなければならないわけではなく、ユーザーの目的や興味に合わせて、どこから始めても良いし、特定のコンテンツのみ学習することもできるようになっている。

本章では、日本語学習コンテンツについて紹介する。

4.1 共通コンテンツ

日本語学習コンテンツは、2つのレベルに共通しているコンテンツと各レベルにのみあるコ

コンテンツに分かれるが、ここでは、共通のコンテンツについて取り上げる。

4.1.1 ドラマでチャレンジ

「ドラマでチャレンジ」は、異文化理解コンテンツ「せいかつとぶんか」と並んで、「まるごと+」本体サイトのメインコンテンツである。ユーザーは、自分自身が主人公となったドラマの中で、場面や状況に応じて日本語でどのように言えばよいか考えながら課題遂行の練習が行えるようになっており、実際に日本語でコミュニケーションをする機会の少ないユーザーにとっても、より「リアリティ」のある練習ができる。ドラマのシナリオ制作に関しても、各Can-doの会話が実際に行われるであろう場面について議論し、学習した日本語



図2 「ドラマでチャレンジ」入門 (A1)

が実際に使える場面を導入すると同時に、ストーリー性を持たせた展開になるよう心がけた。

動画を再生すると、図2のように、ドラマの中の登場人物がユーザーに向かって語りかけてきたり、質問したりするので、ユーザーは動画内に表示されるサインのタイミングに合わせて日本語で発話する。ユーザーが話すべき表現は、ボタンを押すと文字で表示され、何を話せばよいか、自分が話したことは正しかったか、自己評価が簡単にできるようになっている。

学習者の日本語レベルが上がると、語彙や表現が増え、同じ状況であっても、個人によって異なった対応ができることが期待される。そこで、「初級1 (A2)」サイトでは、表現例や選択肢を複数示すことで、状況や自分の気持ちに合わせてユーザーが発話できるようにした。例えば、「秋川さんのお祝いはどうしますか」と登場人物に話しかけられるシーンでは、ユーザーの返答選択肢として「花」「写真たて」「ワイン」があり、この中からユーザーが最もプレゼントしたいと思うものを選び、発話する。すると、ユーザーの選んだものに合わせて、登場人物がさらに日本語で反応する。

つまり、動画の中で分岐点となる箇所があり、その後の動画は、ユーザーの選択により異なるストーリーが展開されていくといった具合である(図3)。このように、「初級1 (A2)」



図3 「ドラマでチャレンジ」初級1 (A2) 分岐イメージ

サイトでは、より状況、ユーザーの気持ちを反映した疑似会話体験ができるようになっている。

4.1.2 れんしゅう「入門 (A1)」／かいわ「初級1 (A2)」⁽⁵⁾

「れんしゅう(「入門 (A1)」)／かいわ(「初級1 (A2)」)」では、モデル会話で個々の Can-do 達成のための発話練習ができる。モデル会話には、動画(「入門 (A1)」)や写真のスライドショー(「初級1 (A2)」)がついており、どのような場面でこの会話が行われるかを視覚的にも理解し、音声でも確認できるようになっている。また、モデル会話の流れは、『まるごと』教科書の会話と同様であり、授業で習ったことの確認や練習がスムーズにできるようにした。

様々な練習が可能になるように、いくつかの機能を用意した。まず、音声では「ぜんぶ聞く／せりふごとに聞く」が選択でき、会話を通して確認することも、せりふごとにリピート練習をすることもできる。また、登場人物

の全員のせりふを再生するのか、特定の人だけ再生するのかが選択でき、再生しない人のせりふはユーザーが発話し、パート練習ができるようになっている。スクリプトに関して、表示／非表示、表示する文字(漢字・かな／かな／Roma-ji)、翻訳の有無が選べ、会話の流れが頭に入っているユーザーはスクリプトを非表示にすることで、よりチャレンジングな練習となるし、意味を確認しながら発話練習をしたいユーザーは翻訳を表示させることもできる。



図4 「かいわ」初級1 (A2)

4.1.3 ぶんぼう

『まるごと』教科書だけでは文法の練習が少ないことから、サイトでは自分の知識を確認したいというユーザーのために、「ぶんぼう」コンテンツの制作にも取り組んだ。ただし、「まるごと+」は課題遂行を意識した構成のため、各文法項目の説明を詳細にすることには重きを置かず、いろいろな場面でどのように文法項目が使われてい



図5 「ぶんぼう」初級1 (A2) 動画でチェック

るかの確認や、練習問題に焦点を置いた。

練習問題は、楽しく取り組めるように、ウェブであることの特徴を活かした様々な形式の問題を準備した。例えば、動画を見ながら文法項目が使われる場面を確認できる問題（図5）、質問を音声で聞いて、適切な答えを選ぶ問題や会話の内容に合うよう文を組み立てる問題、プルダウンで複数の選択肢から選ぶ問題（図6）、ドラッグ&ドロップで並べ替える問題（図7）、ドラッグ&ドロップで複数の選択肢から選ぶ問題などがある。その他、間違えたときなどに参照できるように、各文法項目の説明と資料をつけた。



図6 「ぶんぼう」初級1 (A2)
プルダウン問題

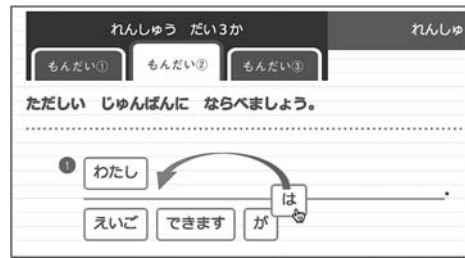


図7 「ぶんぼう」入門 (A1)
ドラッグ&ドロップ問題イメージ

4.1.4 ごい

「ごい」コンテンツは、各トピックで提出される語彙のうち、特にCan-do 達成のために不可欠となる語彙をピックアップし、繰り返し練習ができるように作成した。

「入門 (A1)」サイトでは、イラストをクリックすると、音声と文字、翻訳で語彙が確認できる。ユーザーが覚えやすいように、意味的にまとまりのある語彙カテゴリーごとに、一枚のイラストにまとめた（図8）。また、イラストを見て3つの選択肢から語彙を選択するドリルも用意し、簡単に知識の確認ができるようにした。

「初級1 (A2)」サイトでは、意



図8 「ごい」入門 (A1)

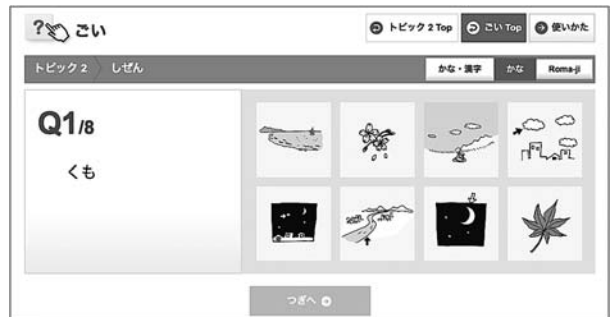


図9 「ごい」初級1 (A2)

味的にまとまりのあるカテゴリーごとに語彙クイズができるようになっている (図9)。クイズは、文字を読んで8つのイラストから該当するイラストを選ぶものと、音声を聞いて8つのイラストから当てはまるものを選ぶものがあり、自由にユーザーが形式を選択できる。

4.1.5 かんじ

漢字学習は、日本語学習の中でも特に時間や労力を要するものの一つで、苦手とする学習者も多いが、授業ではなかなか時間が割けないこともある。そのため、「かんじ」コンテンツは、繰り返し、自分のペースで漢字の確認や練習が行えるように作成した。各漢字の意味と筆順、および、当該漢字を使った語彙の読み、意味、例文が確認できる (図10)。筆順は、アニメーションにし、1画ずつ、どの方向に書くのかといったことが確認できるようになっている。また、例文は、音声も聞けるようになっている。さらに、漢字を覚える一助になるように、「Memory hint」というイラストのアニメーションも準備した。これは、イラストから徐々に漢字ができあがる様子を見ることができ、イメージから漢字を想起する助けとなる (図11)。練習のためのドリルでは、漢字の読み方を3つの選択肢の中から選ぶ形式と、ひらがなで書かれた語彙を3つの漢字の選択肢の中から選ぶ形式のものがあり、ユーザーは目的に応じて形式を選択できる。



図10 「かんじ」初級1 (A2) 文字別ページ

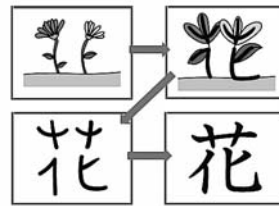


図11 「かんじ」Memory hint イメージ

4.2 レベル限定コンテンツ

次に、一方のレベルにのみあるコンテンツについて紹介する。

4.2.1 Introduction to Japanese : 入門 (A1)

「Introduction to Japanese」は、日本や日本語についての基本的な情報を紹介するコンテンツである。『まるごと』教科書では扱われていない内容であるが、日本についてあまり情報がない、日本語を初めて勉強するというユーザーに向けて、日本や日本語についての概観をつかみ、身近に感じてもらえるように作成した。「Japan Knowledge」「Pronunciation」「Grammar」「Writing」「Kanji」の5つのカテゴリーに分かれる。

まず、「Japan Knowledge」は、日本の地理や気候、文化、社会などに関する基本的な情報を紹介している。ただし、これらの情報は非常に深く多岐にわたるため、まず、日本にまつわる特徴的な12の数字を取り上げ、その数字に関わる情報について概説するという形をとった（図12）。例えば、「5」という数字を取り上げ、日本が5つの大きな島とその他の小さな島々から成るという地理的情報を提供したり、「9」という数字からは、日本の学校制度を概説し、義務教育が9年であることを紹介したりしている。次に、「Pronunciation」は、日本語の発音の基本的なルールである母音やモーラ、アクセントなどについて紹介している。

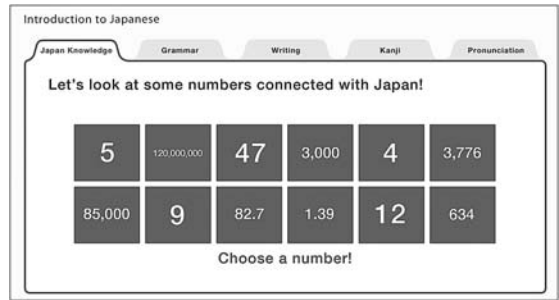


図12 「Introduction to Japanese」Japan Knowledge

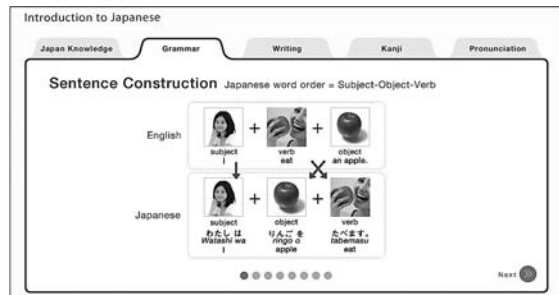


図13 「Introduction to Japanese」 Grammar

簡単な練習問題も取り入れ、日本語の発音に親しんでもらうようにした。「Grammar」は、日本語の文構造など基本的な文法ルールを、主に英語との対照で提示した（図13）。英語母語話者はもちろん、英語を学習したことがあるユーザーにとって、日本語の文法ルールはそれほど複雑ではないことを示すことを目指した。「Writing」では、ひらがな・カタカナ・漢字の起源を簡単に紹介し、特徴や使い分けを説明している。最後に、「Kanji」では、漢字の特徴についてQ&Aの形で紹介するとともに、一般的に漢字に苦手意識を持つ学習者が多いことを考慮して、覚え方のヒントなども盛り込んだ。

4.2.2 ひらがな・カタカナ：入門（A1）

4.1.5でも述べたように、文字の学習は、繰り返し、自分のペースで行っていく必要があるものである。「入門（A1）」サイトの「ひらがな・カタカナ」コンテンツでは、様々なコンテンツを提供し、自分で学習が進められるように工夫している。「ひらがな」「カタカナ」の一覧表では、それぞれの文字の形が見渡せ、読み方を音声でも確認できるようにした（図14）。また、それぞれの文字をクリックすると、当該の文字の形、音、書き方が音声とアニメーションとともに確認でき、その文字を使う語彙も音声、翻訳、写真とともに見られる（図15）。さらに、ドリルで音と形の一致を確認することができる。



図14 「ひらがな」一覧



図15 「ひらがな」文字別ページ

4.2.3 タイピング：入門 (A1)

「タイピング」は、コンピューターで日本語を入力するための練習ができる。現在では、文字は手で書くのみでなく、入門期からパソコンで入力する機会が増えている。こういった状況に対応できるように、日本語の入力をするためのコンピューターの環境設定方法やタイピングの仕方について紹介し (図16)、タイピング練習が実際にできるようにした (図17)。

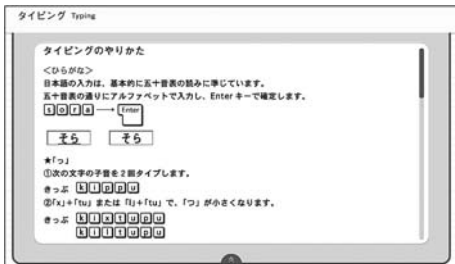


図16 「タイピング」やりかた



図17 「タイピング」ドリル

4.2.4 リスニング：初級1 (A2)

「リスニング」は、「ドラマでチャレンジ」に登場している人のインタビュー動画を見て、問題に答えるというもので、ある程度まとまった長さの話を書く練習ができる。このインタビューの中には一部、未習の語彙や文型も含まれるが、すべてを理解しなければならないのではなく、ポイントが聞き取れることを目指した。

また、「ドラマでチャレンジ」の登場人物を出すことで、既に「ドラマでチャレンジ」を使用しているユーザーは、そのキャラクターを身近に感じるであろうし、インタビューを聞くことで、さらに親近感を覚えてもらうことも狙った。



図18 「リスニング」

5. 異文化理解コンテンツ：せいかつとぶんか

本章では、異文化理解コンテンツ「せいかつとぶんか」について紹介する。これは、「まるごと+」のメインコンテンツの一つで、異文化理解をサポートするためのコンテンツである。

来日経験のない学習者にとって、教科書の写真だけでは具体的にイメージしにくかったり、普通の日本人の生活が想像しにくかったりすることが考えられる。そのため、

「入門（A1）」サイトの「せいかつとぶんか」は、教科書のテーマに沿ってレポーターがいろいろな場所を訪問したり、いろいろな人にインタビューしたりする動画を用意した（図19）。動画だけでは紹介しきれない情報は、「もっとしりたい」コーナーで紹介している。このコーナーの中には、テーマに関連する外部サイトの「リンク」情報もあり、興味を持ったユーザーがさらに自分で調べられるようにした。「まるごと+」のサイトにある情報に留まらず、様々な角度から理解を深める機会をサイトの中で担保することによって、多角的に物事を見て判断する力を養う一助になると考えた。

次に、「初級1（A2）」サイトの「せいかつとぶんか」について紹介する。日本の文化や習慣に関する一般的な情報は、すでにインターネット上にたくさんあり、容易に入手できる。したがって、個別的な個人の情報、「人が見える」情報に絞って取り上げることにした。

例えば、「投稿！ - MY CASE - 研究所編」コーナーでは、日本人と知り合いでない限りなかなか知りえない「暑い夏を乗り切るための工夫」「普段食べているお弁当」といったテーマで、普通の日本人が自分の生活や習慣、考え方について写真と文章で紹介している（図20）。ステレオタイプにならないように、各テーマにつき複数人ずつ登場させたり、一人の人に複数の写真を紹介してもらったりするようにして、個人の中でも多様性があるということを示す工夫をした。



図19 「せいかつとぶんか」入門（A1）



図20 「せいかつとぶんか」初級1（A2）

6. まるごとのことば

『まるごと』教科書は、「かつどう」と「りかい」に分冊されているが、それぞれトピックが共通しており、語彙や表現はどちらの教科書にも共通して登場するものも多い。そこで、ユーザーが語彙や表現の意味や使い方を簡単に調べたり、整理したりできるように、「まるごとのことば」というサイトにまとめた。

「まるごとのことば」の機能、コンテンツは、大きく4つある。まず、辞書としての使い方ができる「検索」機能である。検索したいことばをひらがな、漢字・かな、ローマ字、英語またはスペイン語を入力して検索できる。検索結果から詳細画面を開くと、音声、対訳、例文、教科書の種類、トピック・課、品詞、辞書形（動詞のみ）、例文が示される（図21）。対訳や例文は、

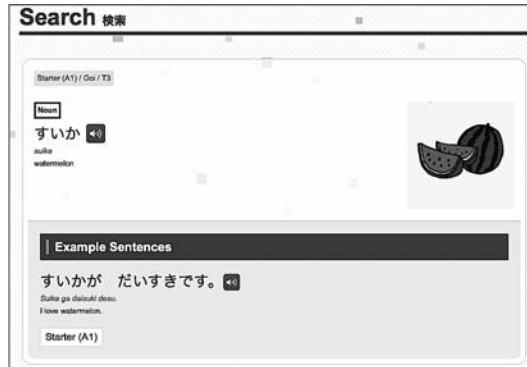


図21 各語彙ページ

『まるごと』教科書のトピックに沿ったものに限って紹介し、教科書を利用している学習者に使いやすいものとした。2つ目の機能が自分でリストを作ることができる「わたしのリスト」である。教科書の種類や課を指定すると、そこに出てくる語彙、表現がリストアップされる。品詞で絞り込むことも可能である。また、ここで作ったリストを使って、単語カード式の簡単なクイズを生成することができる。3つ目は「コレクション」である（図22）。これは、カレンダー、時間、位置、数、色の5つのカテゴリーの言葉を表やイラストで一覧できるものである。カラーできれいに色づけされた画像は、PDFとしてダウンロードできるので、学習者の手元に置いて、いつでも参照してもらおうことを狙っている。4つ目は「BONUS☆にほんご YATTETTE」というコンテンツである。これは、日本語でEメールを書いたり、友達に自分の趣味の話をしたりといった、実際の生活で使えるような例文を集めたコンテンツである。ユーザーが日本語を使ってみたいと考えたとき、その場面と似ている Can-do から例文を探し、自分が実際に使用する場面に合わせて語彙を入れ替えるなどすることを想定している。

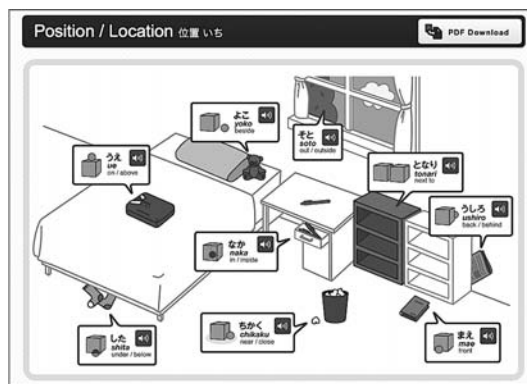


図22 「コレクション」

7. 「まるごと+」の反響と今後の課題

サイト公開後、海外にある国際交流基金の拠点5箇所のJF日本語講座で、「まるごと+」を使っている受講生や教師に聞き取り調査を行ったり、日本語教育関係の学会で発表し、参加者の方から意見をいただいたりした。

日本語学習コンテンツに対しては、特に「ドラマでチャレンジ」へのコメントが多く寄せられている。具体的には、「表現は知っていても、実際にどう使っているかわからなくなることがある。そのような場合の練習になる」「海外の学習者に不足しがちな実際のコミュニケーション場面をある程度補うものだと思う」「会話ができるというのは、語学学習者にとってはとても貴重なものだと思います。しかも、日本の風景を目にしながらなので、飽きない」といった声が上がっている。学習した日本語を使う機会がほとんどないユーザーにとっては、たとえば動画の中の登場人物との疑似的な会話であったとしても、日本語を使って質問に答えたり、日本語で感情を表出したりする練習は貴重な体験として受け止められているようである。また、「初級1（A2）」サイトでは、動画の中に分岐点を用意し、ユーザーの選択によってその後のストーリーが展開される仕掛けを施したが、これに対しても「個人の感情に基づいたストーリーになっており、従来にはない視点で印象的である」などの意見が寄せられており、肯定的に受け入れられている。「ドラマでチャレンジ」以外のコンテンツに関しても、「『かんじ』のMemory hintがよい」「『ぶんぼう』は練習がたくさんあり、学習に役立つと思う」といった評価を得ている。

異文化理解コンテンツ「せいかつとぶんか」に対しても多くのコメントが寄せられている。「入門（A1）」サイトに対しては、教師から「動画は、具体的に説明するときに使える。授業内でぜひ見せたい」「生活と文化は、授業で時間がとれないこともあるので、サイトに期待している」といった声が上がっており、学習者だけでなく教師も有用であると感じていることがわかる。ウェブサイトが教科書だけでは伝えきれないことや授業時間内に取り上げられないことを補完する役割を担っており、教科書とセットでウェブサイトも必要不可欠なものとして位置づけられているようである。また、「初級1（A2）」サイトに対しては、「使い方やテーマによっては、海外の中等教育での使用の可能性も十分ある」「新聞記事やインターネットでは得にくい個人の意見や価値観が扱われており、中上級レベルの授業でも十分使えそうである」といったように、年齢や日本語レベルに関係なく、様々な学習者にとって有益なコンテンツであると受け止められている。容易に入手可能な一般的な情報ではなく、人が見える個別的な個人の生活や習慣、価値観といった情報が広く現場で求められていることがうかがえる。

その他、サイトの操作性に関して「デザインが直感的で分かりやすく、使いやすい」といった意見、表記に関して「『かな』『かな・漢字』『ローマ字』『英語』が選択できるのが使いやすい」といった意見が上がっており、ITリテラシーや学習の進度などが異なる多種多様なユー

ザーにとって使いやすいサイトだと感じてもらえているようである。

一方で、「本体サイトをスマートフォンなどの携帯端末機器で利用可能にしてほしい」「各コンテンツをアプリ化すれば使いやすくなると思う」といった意見もあり、ある程度学習場所が固定されるパソコンではなく、移動中や隙間時間に手軽にいつでもどこでも使えるサイトを望む声が上がっている。また、「自国の言葉に対応しているともっと使いやすい」といった多言語化の要望も寄せられており、今後検討していきたい。その他、『『まるごと』の教科書を使っていない学習でも、十分に役立つ内容である』『日本国内で地域の日本語教育に携わっているが、部分的には自分の現場でも利用できそう』といったコメントもあり、今後、『まるごと』の教科書以外で学習している人を意識した利用方法の紹介やサイトのさらなる充実を検討していく必要がある。

今後も、継続してユーザーへの聞き取り調査を行い、日本語学習者が求める日本語学習サイトとはどのようなものかについて考え、具現化していきたい。

〔注〕

- ^①『まるごと』に関する資料や教材などの情報は、『まるごと 日本のことばと文化』公式ポータルページ (<http://marugoto.org> : 2014年8月24日参照) にまとめられている。
- ^②これまで関西センターで開発したウェブサイトには、「日本語でケアナビ (<http://nihongodecarenavi.jp>)」「アニメ・マンガの日本語 (<http://anime-manga.jp>)」、「NIHONGO e な (<http://nihongo-e-na.com>)」がある。
- ^③聞き取りを実施した2011年度の数値。2013年度は、世界28カ国、31カ所で実施している。
- ^④中級、上級レベルの講座を開講している拠点もあるが、サイト開発は、まず『まるごと』教科書の「入門 A1」レベルに対応するものから始めたため、本聞き取りにおける講座受講生のレベルは、入門および初級とした。
- ^⑤コンテンツの目的や機能などはほとんど変わらないが、コンテンツ名が異なる。

〔参考文献〕

- 来嶋洋美・柴原智代・八田直美 (2012) 「JF 日本語教育スタンダード準拠コースブックの開発」『国際交流基金日本語教育紀要』第8号、103-117、国際交流基金
-
- (2014) 『『まるごと 日本のことばと文化』における海外の日本語教育のための試み』『国際交流基金日本語教育紀要』第10号、115-129、国際交流基金